

I. 基本理念

A. 精神的基盤

近隣教会の牧師や教会員、引退牧師の協力により、月曜日から金曜日まで毎朝礼拝を行い、語られる聖書の言葉を通して、理念の土台であるキリスト教の精神に触れ、理念の実践に結びつけた。

B. 運営方針

1. リスク管理体制を見直して、利用者や職員が安心して暮らせる（働ける）環境作りに取り組みます。
 - ・不適切ケアへの対応をもとに「高齢者虐待防止マニュアル」を定め、周知・運用している。
 - ・「介護事故 防止・対応マニュアル」の不審者対応手順を現実の場面を想定して見直し運用している。
 - ・感染症や事故への対策や予防を「介護事故 防止・対応マニュアル」にある手順に沿って実施し、対応や意識の定着を図った。
 - ・外部講師によるハラスメント研修を継続実施し、ハラスメント撲滅に向けた意識の定着を図った。
 - ・「こころの健康相談窓口」を外部専門家へ依頼し、メンタル面でのサポートを継続している。
2. ユニット棟開設を視野に入れた「人材確保」「資金確保」「人財育成」に取り組みます。
 - ・人材確保：採用 6 名（常勤 5 名、非常勤 1 名）に対して退職 11 名（常勤 5 名、非常勤 6 名）。
 - ・利用者確保：特養と短期入所が連携し、入所判定会を通過した方で自宅での介護が既に困難な方を短期入所利用しながら入所を待つ体制を整えたため、退所後速やかに入所へ結びつけることができた（退所～入所空日数平均 11.3 日。1～3 月 9 名中 8 名が 1 週間以内に入居）。しかし、市内の入所施設の増加により、全てのサービスで 2015 年度より延べ利用者数は減少した。
 - ・人財育成：ユニット棟、従来棟それぞれにプロジェクトを立ち上げ、目指すサービスのイメージを共有し建築図面や提供サービスの方針を検討した。伊豆高原十字の園への体験実習も行った。
3. ユニット棟改築および既存棟改修が補助金の対象となるよう浜松市との協議に取り組みます。
 - ・浜松市との協議を重ねてきたが、平成 30 年度は補助対象にならないことが明確になった。理事長の協力も得て、平成 31 年度以降の制度化に向けて協議を継続していく。
 - ・設備の老朽化により入居者の暮らしに不便をかける機会が増えているため既存棟改修の先行実施も含めて、改修事業全体の進め方や資金計画の見直しを行い、早期に改修を具体的に始めていく。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況

1 介護老人福祉施設

- ・介護 1 F：接遇マナー改善によりご利用者の立場に立ったサービス提供に取り組んだが具体的な成果は出しづらかった。／ご利用者の状態の変化に応じた排泄ケアの意識改善に取り組み、変化に応じた用品を使用するようになった。／共有の必要性が高い記録は色付けや写真添付する取組ができた。
- ・介護 2 F：記録の精度を高める取組をフロア全体で行い、記録漏れや記録の矛盾がほぼ解消できた。／ターミナルケア開始時のユニット内カンファレンスを医師の判断後 1 週間以内に全数できた。／言葉遣いの改善に向けて自己評価による取組を行ったが変化は数人であり課題が残った。
- ・看護：皮膚トラブルに多職種協働で早期に対応したことにより重症者も改善が見られた。／看護職員の担当をユニットからフロアへ変更し、フロア間の情報共有がしやすくなった。
- ・リハビリテーション：機能訓練計画に沿って実施できたが計画の内容に個別性が欠けているため、個々にあった介助量や介助方法を細かく計画へ反映していく。／クリストファー大学教員の協力を得て食事環境・嚥下機能の評価結果を伝達しているが情報共有に課題が残っている。
- ・生活相談員：入居前の面接時に写真やカメラを活用し、施設の状況やご利用者の状況を目に見える形で伝え、双方に好評だった。／介護支援専門員と連携してご利用者の希望を叶える活動計画を立て、行きたい所、住み慣れた家や地域へご家族の協力も得て実施することができた。／施設改修計画をご利用者やご家族へ伝え、ユニット棟への利用希望を伺うことができた。／退所から入所までの空き期間を短くするため、入所判定会を通過し希望する方を短期入所で施設に慣れていただき、空きが生じたら速やかに入所へ移行する取組を行った（年間平均 11.3 日。1～3 月平均 5.3 日）。
- ・介護支援専門員：生活相談員と連携してご利用者の外出支援を行うことができ、施設の中とは違う生き生きとした表情を見ることができた。／入所前の情報収集を多職種協働で行いケアプランへ反映することができた。／多職種協働により看取りプランの充実に取り組むことができた。
- ・給食：褥瘡が深刻な状況にならないよう栄養面で新製品を使うなどした支援に取り組み重症者も改善された。／委託業者の協力を得て、通常メニューに新たなメニューを導入しご利用者から好評を得た。

- ・総務：施設改修に向けて職員駐車場整備と運用をスムーズに行うことができた。／育休や退職により事務職員が減少したが相互に協力し合い大きな影響を与えることなく遂行できた。／古い設備を計画的に更新したが、水回りは各所で不具合が発生し抜本的な改修を早期に行う必要を痛感した。

2 短期入所

- ・ご利用者が住み慣れた自宅での生活を継続できるようリハビリやレクを通してADLの保持、事故の防止に努めたが十分な実施ができなかった。／年間目標稼働率 85.0%は達成できなかったが、特養との連携により長期利用者を確保し年明け以降は70%後半～80%台を維持できた。

3 通所介護

- ・毎月の会議で作業療法的な視点でご利用者の状況を共有し、作業療法を意識したご利用者との関わりを深めることができた。
- ・80%台の稼働率を維持していたが年明け以降週3回以上利用の方が体調を崩し利用中止になったり、短期入所中心の利用になったりして70%台へ落込み、年間目標稼働率 94.0%は達成できなかった。

4 診療所

- ・精神科医師の勤務日数が月2回に増え、迅速な対応によりご利用者の安定した生活に寄与できた。

B. 利用実績

(職員数は2016年度末月現在の数とする)

	特 養	短 期	通 所		合 計
利用定員	120 人	20 人	22 人		—
利用者延数	43,117 人	5,177 人	5,519 人		—
1日平均利用者数	118.1 人	14.2 人	17.8 人		—
稼働率、稼働指数	98.4%	70.9%	89.0%		—
稼働日数	365 日	365 日	310 日		—
単価(一人一日当たり)	10,918 円	10,891 円	9,012 円		—
総収入(千円)	470,757 千円	56,384 千円	49,738 千円		576,879 千円
職員数(常勤換算)	69.16 人	8.51 人	8.21 人		85.88 人

C. 資金収支、財務状況

1 資金収支予算達成状況

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	600,255	582,744	580,110	563,617	20,145	19,127
施設整備による収支	680	680	39,750	39,712	△39,070	△39,032
その他活動による収支	39,830	41,696	20,810	21,767	19,020	19,929
当期資金収支					95	24

(当初予算との増減差額が大きい要因)

- ・収入について：特養は目標稼働率 99.0%に対して 98.4%だったが、各種加算の取得に取組ほぼ予算通りの結果となった。在宅は入所施設が増えたことにより利用者数が減少し、短期は目標稼働率 82.0%に対して 70.9%、通所は 94.0%に対して 89.0%となり収入は減少した。
- ・支出について：産休・育休取得や退職者の増加により人件費は 9,245 千円減少した。稼働率が減少したことにより給食費・介護用品費などが減少し、加えて電気・ガス代単価も減少したため事業費は 6,584 千円減少した。

2 設備投資及び積立の状況 (千円単位)

- ・固定資産取得：耐火キャビネット 163、駐車場防犯カメラ 459、業務用乾燥機 1,564
職員駐車場整備 10,241、増築工事実施設計 24,300、記録システムライセンス 112
- ・積立、取崩：施設整備積立 10,200、施設整備積立取崩 36,430

3 借入金及び借入金償還の状況 (千円単位)

- ・元金償還 1,500、利子 49、元金補給 680、利子補給 4、年度末残高 3,000
- ・新規借入金：なし

Ⅲ. 対処すべき課題

- 1 ご利用者が安心して暮らせる環境整備(認知症理解の促進、人権意識の高揚、安全な設備の維持)
- 2 安心して働ける職場作り(職場のチーム力向上、職員育成の充実)
- 3 施設改修事業に向けた経営体力の強化(ご利用者と職員の確保、改修事業費の削減、報酬改定の備え)

1. 施設利用の状況

区分		2016年	2015年
入居者数	男	30人	29人
	女	87人	89人
	計	117人	118人
利用日数	男	10,545日	9,947日
	女	32,572日	32,764日
	計	43,117日	42,711日
平均入居期間	男	3.06年	2.03年
	女	3.73年	3.06年
	計	3.57年	3.02年
最長入居期間	男	20.00年	19.00年
	女	18.10年	17.10年

区分		2016年	2015年
平均年齢	男	80歳	81歳
	女	88歳	87歳
	計	86歳	86歳
最高年齢	男	100歳	99歳
	女	107歳	106歳
最低年齢	男	65歳	58歳
	女	64歳	63歳
出身地域	圏内	113人	117人
	圏外	0人	0人
	県外	2人	1人
平均介護度		3.69	3.62

区分		2016年	2015年
入居者数	男	11人	18人
	女	19人	27人
	計	30人	45人
退居者数	男	10人	15人
	女	21人	31人
	計	31人	46人
入院者数	男	12人	8人
	女	10人	20人
	計	22人	28人
入院日数	男	171日	144日
	女	195日	387日
	計	366日	531日

入居者の介護度区分

区分	2016年	2015年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	5人	5人
要介護度2	10人	11人
要介護度3	35人	36人
要介護度4	34人	38人
要介護度5	33人	28人

入居前住居

区分	2016年	2015年
自宅	19人	27人
病院	4人	3人
老健施設	6人	11人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	1人	4人

退居者内訳

区分	2016年	2015年
死亡	22人	41人
帰宅	0人	2人
病院へ転出	9人	3人
他施設へ転出	0人	0人
その他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2016年度	2015年度
短期入所生活介護事業	延人数	357	351	352	408	442	412	441	491	440	473	500	510	5,177人	5,252人
	一日平均	11.9	11.3	11.7	13.2	14.3	13.7	14.2	16.4	14.2	15.3	17.9	16.5	14.2人	14.3人
	営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	366日
通所介護事業(一般型)	延人数	503	488	498	452	468	468	461	489	479	400	385	428	5,519人	5,820人
	一日平均	19.3	18.8	19.2	17.4	17.3	18.0	17.7	18.8	18.4	16.7	16.0	15.9	17.8人	18.7人
	営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310日	312日

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減							
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤						
	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務						
施設長	0	1	0	0	1													
事務員	4	0	1	0	2	1	2											
相談員	4	0	0	0	1		3											
介護支援専門員	1	0	1	0			1	1										
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0													
	介護職員	44	0	13	0	15	2	29	11	4	3	2	1	-2				
	看護職員	8	0	1	0	4		4	1	1	1		0	0				
	機能訓練職員	1	0	3	0		2	1	1	1			1	0				
栄養士	1	0	1	0			1	1					0	0				
調理師・員	0	0	0	0									0	0				
医師	1	0	2	0	1	2							0	0				
その他	0	0	22	0		4		18			6	8	0	-2				
小計	64	1	44	0	23	1	11	0	41	0	33	0	6	8	5	12	1	-4
在宅事業	通所(一般)	5	0	6	0	2	2	3	4	3	2	3	3	0	-1			
	小計	5	0	6	0	2	0	2	0	3	0	4	0	3	2	3	3	0
合計	69	1	50	0	25	1	13	0	44	0	37	0	9	10	8	15	1	-5

* 現員は2017年3月31日現在。

就退職は2016年度内増減。

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	3件	55,000円
職員	9件	161,000円
業者	0件	0円
入居者	1件	30,000円
入居者家族	5件	85,000円
遺族	5件	290,000円
在宅一般	1件	20,000円
合計	53件	964,533円

その他寄付金収入

区分	件数	寄付金額
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円